

EXOPOLITICS or XENOPOLITICS?

by Steven M. Greer M.D.

Director, The Disclosure Project

<http://www.DisclosureProject.org>

Copyright 2006

異星人政策，それとも異星人排斥か？

執筆：スティーブン・M・グリア 医師

ディスクロージャー・プロジェクト責任者

<http://www.DisclosureProject.org>

著作権 2006年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

訳者注記：EXOPOLITICS はマイケル・E・サラ博士により 2005 年 4 月 7 日に設立された UFO 研究組織

注記：この論文は全文掲載に限り配布自由である。

新興している異星人政策 (exo-politics) の領域が、流言、都市神話的憶測、および扇動的なよそ者嫌い (xenophobia) に向けて、危険で破滅的な結果をもたらしかねない方向転換をしたのを、我々は相当な懸念を持って注視してきた。

ある地球外文明が、我々の歴史のこの時期になぜ地球を訪問したいと思ったかについては、確かに様々な意見がある。しかし、マイケル・サラによる最近の一般に向けたコメントは、全く薄弱な証拠に基づく、悪意に満ちたよそ者恐怖症の傾向を付け加えた。通常私は、ある種の間人が信奉する意見に関して論評するのを控えているが、沈黙しているだけでは恐怖、憎悪、偏見のメッセージがさらに勢いを増す - そして兵器と宇宙戦争への議論を無意識のうちに支持する - 時点に至ったと感している。

明らかに、地球外研究の広大な分野では、知られていることよりも知られていないことの方が多い。また、この人類-地球外知性体の関係の初期段階では、学び、探求し、発見すべきことがまだ多く存在する。しかし、この点に関して平和的政策を支持すると主張していたサラは、この 1 年の間に ET (地球外知性体) の行動について偏見に満ちた危険な解釈を提示した - ある背の高い白色系 ET 種族が、2004 年のボクシング・デー津波 (* 2004 年 12 月 26 日に発生したスマトラ沖地震による津波) を引き起こしたという、馬鹿げた非難までしてみせた！彼の主張によれば、非道で暴力的な ET たちのグループが、闇の人間たちと秘密協定を結んだ - そして人類に向けた有害な行動計画を持っている。ほかにもまだある。

公開プロジェクト (ディスクロージャー・プロジェクト) には、実際の UFO/ET (未確認飛行物体/地球外知性体) 事象とプロジェクト (複数) について直接の知識を持つ軍、政府、および企業の部内者が 450 人以上いる。これらの部内者のうちただの一人も、サラにより提示されたよそ者嫌いの流

言を確証していない。これは奇妙なことだ。

都市神話や流言を事実として混淆することは、賭けられているものが何かを考えると、危険な先例である：ET／人類の相互作用と関係の初期段階。我々は流言や風説 - しばしば UFO の主題を中傷したり恐怖や偏見の種をまき散らす任務を負った防諜工作員たちに発信源を持つ - のすべてを、結論に到達するための立脚事実として向こう見ずに受け入れることはできない。

すべての話を - それがどんなに危険なよそ者嫌いのものであろうと - 軽薄に真実として受け入れるのは無責任であり、それは大衆が偽情報を与えられ、恐怖に陥り、結局は脅されて ET 問題への宇宙の軍事化という解決策を容認するのを見たい輩の行動計画に利するだけである。

考えてみて欲しい：公開プロジェクトは、他の研究者たちと同様に、数十年に及ぶでっち上げられた UFO 関連事象のパターンを知っている。それは疑似コンタクト体験（誘拐としても知られる）、動物切断、生体解剖、その他の同類のものに集中する。そのことを立証する数多くの軍と陰の政府の証人たちは、彼らの重要な心理作戦のために実際に誘拐や動物切断を実行したと私に証言した。このような証人の一人、特殊作戦に関わった陸軍レンジャーは、私に次のように語った：“我々がどれほど多くの人々 - 著名な軍人や政治家たちを含む - を誘拐し、恐怖を与え、彼らが ET の存在を嫌悪し闘争を支持するように仕向けたか、あなたには全く分からないでしょう...”

1980 年代のマーチン・キャンノン、そして後には MILAB (Military Abduction; 軍事誘拐) という本が、彼らの重要な心理作戦のために電子技術、ARVs (複製された異星人の輸送機と呼ばれる人間の手になる UFO に似た航空機)、および‘演出技法’が巧妙に使用され、ET コンタクト事象が捏造されたことを立証した。

実際に、FOIA (情報公開法) により我々に開放された CIA 文書 (複数) は、心理作戦目的で UFO 問題を利用することを論じている。これらの文書は、いずれも本著者による ‘Extraterrestrial Contact: The Evidence and Implications (地球外接触：証拠と意味)’ と ‘Disclosure (公開)’ に含まれている。

1950 年代初期のウィルバート・スミスによるカナダ最高機密文書は、米国政府において UFO 問題は、水爆の開発を巡る秘密をさえも凌ぐ、最高機密の主題であると説明している。これらの事実を考えると、人々の間に広まっている恐ろしい話のすべてを真実として受け入れ、そのような風説に基づきこれやあれやの ET 種族に関して大まかで偏見に満ちた声明を出すのは、妥当だろうか？

もし我々が、結束して戦うもう一つの偽の敵を受け入れるよう巧みに操作されることを避けたければ、我々は自制し、慎重でなければならない。陰の政府の多くの上層部内者は、独立して次のことを私に語った。人々に偽情報を与え、宇宙からの脅威という偽の印象を創り出すための、協調した努力がある。それにより結局は、数兆ドル規模の宇宙兵器の建設が一般大衆により容認されるだろう。

このようなプロパガンダは新しいものではない。戦争行為にさらに深く関わろうとするどの軍事権力も、まず最初に敵を悪魔化した。ヒトラーとその手先は、ユダヤ人、同性愛者、その他を巧妙に悪魔化し、人々が‘最終解決’を従順に受け入れるようにした。このようなグループによる悪意に満ちた否定的な描写は、暴力的に扱われるべき仮想敵を生み出すのに不可欠だった。

今日、我々はある真偽の疑わしい ET グループ(複数)に向けられた、差別主義的呼称を目にする - グレイ！爬虫類種族！背の高い白色系種族！このうんざりする汚れた道を、我々は再び降りていかなければならないのか？我々が星々に向かう第一歩を歩み始めたこのときに、差別主義、偏見、よそ者嫌いの卑しむべき歴史を、我々は再び繰り返さなければならないというのか？

ノーだ。我々はそうなつてはならない。我々は自らの程度の低い恐怖を抑え、我々自身の悪魔を飼い慣らさなければならない - そして真実の目で我々を取り巻く宇宙を眺め、こう自問しなければならない： ET 生命体をこのように恐ろしげに描写することで、誰が利益を得るのか？このような陰のグループは、我々をどこに連れて行こうとしているのか？どれほど多くの情報 - それほど傲慢に事実だと言いつらされている - が、実際には憎しみと恐怖の種をまき散らすための巧妙な防諜偽情報工作なのか - こうして宇宙兵器が正当化される。

札付きたち - 莫大な集中した富と権力を享受している輩 - は、世界を結束させたがっている - だが、平和的にではない。彼らは、人類を確実に待ち受けているよき未来のために我々を結束させ、支配しようとしているのではない。そうではなく、彼らは恐怖と戦争 - 世界(複数)の間の戦争 - によって支配しようとしている。権力強化のための最後の切り札。そこでは、全人類がある ET 種族 - おそらくただ一つの - に対する統一された敵対者になるべく殺到するだろう。こうして、人々の間に燎原の火のように広がる恐怖により、最終的な地球支配を達成する。

フォン・ブラウン博士は死の床で、このような計画について警告した。彼は我々に次のように警告した。冷戦が終わると、‘ならず者国家(複数)と懸念のある国家(複数)’が現れるだろう； その次には世界的テロが続く； その後は宇宙からの脅威だ - 恐怖の最後の切り札。それにより全人類は、映画‘インデペンデンス・デイ’が表現したように、‘エイリアンを全力で蹴っ飛ばす！’ために結束する。

闇の人間による行動計画をまず理解することなしに、ある ET 行動計画について判断する術はない。何が現実で何がメモレックス(Memorex)なのか - 何が ET で何が疑似 ET 偽情報なのか、巨大な陰の政府のプロパガンダ機関である煙と鏡の大広間に侵入しない限り、我々がそれを見分けることはできない。

それは容易ではない。それには途方もない忍耐、根気、不断の努力、そして注意深さが必要だ。

しかし、そうするだけのことはある - なぜなら、そうしないと意識的にか無意識的にか、異星人政策が戦争プロパガンダ機関の片腕になってしまうからだ。

我々は、これよりも首尾よくやらなければならない。我々は恐怖と偏見を抑制し、否定的で恐怖を煽る根拠の薄弱な話や、防諜工作に根ざした固定観念の広まりを回避しなければならない。我々は、人間による UFO の秘密の背後にいる輩の、技術的および心理学的能力を十分に研究しなければならない - そして、現実と嘘を見分ける方法を学ばなければならない。

公開プロジェクト(www.DisclosureProject.org)の親組織である CSETI(地球外知性体研究センター

- www.CSETI.org)は、ETの人々との接触を行なうために、16年間にわたり世界中に調査隊を派遣してきた。我々が危害を加えられたことは、一度もない。我々が脅威を与えられたことは、一度もない。我々が恐怖を感じたことは、一度もない。数百回に及ぶ派遣に参加した数千人の人々は、これらのUFOと交流を持った - そしてそれらに搭乗した生命体とも。

このすべてを通じて我々が知ったただ一つのことは、ETの人々は我々を理解し援助したいと思っていることだった。彼らは宇宙で我々が合流するのを待っている - 平和な種族として。そのとき、そしてそうやって初めて、宇宙が大きく腕を広げ、平和で進歩した人類を受け入れる用意ができたことを我々は知るだろう - そして人類は星々の間を自由に旅するのだ。

我々の提案は、新興しているET／人類関係への建設的で慎重な取り組みについて憂慮する人々が、**惑星間関係に関する新協議会 (new Council on Inter-Planetary Relations)**を組織することである。憂慮する市民たちの協議会として、これら宇宙からの訪問者たちと平和な関係をいかにしたら最もよく促進させられるか、共に探求しようではないか。我々に合流していただけるだろうか？

スティーブン・M・グリア 医師

2006年5月2日、バージニア州アルベマール郡

(訳: 廣瀬 保雄)